

第17回

## 特集 SRお客様交流会

第2回

## SRグランプリ 結果発表

2013年9月11日(水) 大田区産業プラザPiO

データ・テック創立30周年を迎え、今年2回目のお客様交流会。今回も96社173名のお客様にご参加いただきました。SR導入後9年目を迎えたトータルビルシステム事業者様の事例や、第2回を迎えたSRグランプリ結果発表と表彰式、スマートフォン対応SR製品「Safety RecII -OBD-」の発表など、30周年記念にふさわしい充実した内容で活況を呈しました。

### SR導入から9年目を迎え、さらなる効果アップに果敢に挑戦

三菱電機ビルテクノサービス株式会社  
安全衛生本部 参事 渡部 悟志 様



所在地：東京都荒川区荒川7-19-1(本社) 事業内容：トータルビルシステム事業  
事業拠点は全国約280カ所 SR導入：SRPocketおよびSRComm  
設立：1954年4月 1,488台(延べトライアル導入)  
代表者：代表取締役社長 石川 正美 2005年2月より全車導入し、現在SR搭載  
車両は約1,200両

### 三菱電機ビルテクノサービス株式会社 様

✓ SR運転診断得点 **平均80点以上**

※導入当初の40点台から約40点以上UP

✓ **安全運転が社員の体にしみつく!!**

※業務やプライベートを問わず、運転がやさしくなった

### 導入9年目、社内の仕組みづくりや安全啓発活動が実を結ぶ

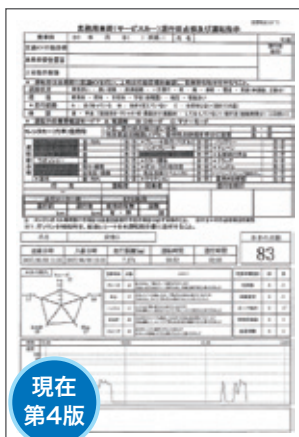
お客様に「安全」「安心」「快適」を提供することを旨とし、社名を冠した車両で公道を走ることは「運転マナー＝会社への評価」となります。「車両事故の加害者はもちろん、被害者にもならない」「車両運転も業務の一環」として車両事故0を目指す活動に取り組み続けました。2004年よりSRの試験運用を開始。SR導入や運用、ドライバーや管理者への教育、安全運転日誌の改訂(現在第4版)など様々な取り組みを行ってきました(SR NEWS vol.51をご参照)。SR導入後、安全運転啓蒙活動として、安全運転に関する情報を毎月発行。また、危険に関する感受性向上に向けた「感性向上訓練」を導入実施。SRデータによる客観的な教育、指導により、様々な効果が得られました。

### バック運転と駐車場内の事故ゼロを目指して全社での新しい取り組み

SR導入で得られたのは、「①上司の運転に対する意識・指導内容・フォロー」「②ドライバーと管理者とのコミュニケーション」「③燃費」——の3点が向上したことです。またSR搭載車による安全運転が常習化することで、ドライバーがマイカーにおいても「穏やかな運転」になり、プライベートでの事故防止にも大いに役立ちました。SRによって事故削減や燃費向上などの効果が得られましたが、さらに一歩踏み込んで次のステップを目指し、「バック運転中」「駐車場内」の2つのチェックポイントを挙げました。この2つを改善するために「目視呼称の徹底」「同乗者による誘導」「乗り込み前後の後方確認」などのルールを徹底させていますが、単独搭乗時の軽微な事故がなかなか減りません。この課題を解消すべく、「SRVDigitacho」導入を検討中です。バック運転中のドライバーの様子を映像記録し、目視呼称が習慣化されているかを確認・指導することで、効果的な事故対策が取れると考えています。さらに運転者、管理者へ「安全運転サイクル下敷き」を配布。ドライバーと管理者の役割を明確化し、安全運転サイクルとして実施するための啓発を行っています。



▲ SR導入後、9年目を迎えた三菱電機ビルテクノサービス。写真は、同社のドライバーと管理者による運行チェックの様子。運行前後の日報を介した両者のやりとりにより安全運転指導が効果的になり、コミュニケーションも密になったという



現在  
第4版

◀ データ・テックの協力のもと改訂を続けた日報。日報とSRデータをリンクさせることで、ドライバーの運転の「見える化」を実現し、管理者も適切な安全運転指導が行えるようになった



▲ 感性向上訓練(交通SUT)シート。2005年にSRトライアル導入をきっかけに様々な安全啓発活動を実施



▲ 「安全運転サイクル下敷き」。運転者、管理者へ配布。運転者と管理者が、運転前・中・後で何をすればいいのかが要約されている